



Yonago East Weekly

「ロータリーに誇りを！ 参加しよう そして、行ってみよう」

- 創立/1968年4月24日 ●事務所/米子市西福原1-1-55 ホテルサンルート米子 Tel (0859) 32 - 5531
- 例会日/水曜日12:30~13:30 ●例会場/ホテルサンルート米子市西福原1-1-55 Tel (0859) 33-0911
- 会長/木美俊彦 ●幹事/長棟信泰 ●会報/楠 明彦

会員数 92名
(正会員 91名 名誉会員 1名)

今週のお祝い

夫人誕生祝い: 1日 小田浩一君、中山博文君
3日 鷺見雄司君 21日 伊藤慎哉君、澤耕司君
22日 岩崎稔君 29日 永島清孝 30日 上森英史君

会長挨拶

急に寒くなってきました。私はシルクロードが好きでありまして、先日天安門広場に車が突っ込んだという事件があり、新疆ウイグル自治区の人たちが起こした、ということでしたので、お話しさせていただきます。

シルクロードは中国の西安から、中央アジアを通りまして地中海まで行っています。2007年に新疆ウイグル地区へ行ってきました。中国の六分の一の大きさで、省都はウルムチというところで、北京から飛行機で4時間くらい行ったところ。土地としては真ん中がタクラマカン砂漠になっています。ウルムチは、170万都市ですが、幾多のオアシス都市を連ねたところ。なぜ中国国内でトラブルがあるかといいますと、ウルムチはウイグル族の土地であり、新疆はトルコ系のイスラム圏の土地であります。ここには石油埋蔵量が中国全土の28%、天然ガスは33%あると言われております。また中央アジアからのパイプラインがこの地域を通っており、この点が中国としてはこの土地を離さない理由だと思っております。

幹事報告

- 11/16鳥取県IA指導者講習会(倉吉 伯耆しあわせの郷) 古杉会員、植田(三)会員出席
- 本日18:30より 第3回家庭集会(かき船)
- 11/27年次総会 例会終了後
- 2014-15年度奨学生募集について
・地区補助金奨学生
・グローバル補助金奨学生
- 12/4第13回中海再生プロジェクト総会のご案内
- 例会変更のお知らせ
米子南RC 11/25(月)夜間例会 ビジター受付あり
米子 11/29(金)夜間例会 //

次回プログラム

11/27 「山根正子さんの支援について」

西山亞希 氏

12/4 「ロータリーの友」

雑誌委員会副リーダー 川端会員

「私の職業」 佐々木宏 会員



Engage Rotary, Change Lives

ロータリーを實踐し みんなに豊かな人生を

<プログラム>

「私の職業①」

株式会社カタセイ
代表取締役
片岡 敏一 会員



私は、食肉卸業を本業としてやっております。創業しまして41年になりますが、私が41歳ですので丁度私が生れた時に父が会社を起こしたのがはじまりです。本社工場は境港の竹内団地にあります。12年前に日本で狂牛病が発生しました。当時、私の会社では牛肉の7、8割がアメリカ産牛肉だったので、会社としてどうやっていこうかという時、今ではもう一つの軸になっている外食産業に進出し、現在に至っております。

国道431沿いに三柳食堂があり、また皆生のHOKさんの所では、焼肉屋やパスタ屋をやっております。昨年松江にバイキングの二号店を出しました。現在地域の一番店になっています。今後は島根県や山陽方面にも頑張っけて伸びていきたいと思っています。

趣味の話ですが、私はサーフィンをやっております。年に一回は海外でサーフィンをしています。サーフィンの面白さ、なかなか上達しないことだと思います。サーフィンをやっている人に見られるまでに一年以上掛ります。今まで経験したスポーツの中で一番難しいスポーツだと思います。また学生の時に陸上をやっております。先日鳥取米子間駅伝にも出場しました。53チーム中50位と悲しくなるような結果でしたが、これから毎日20キロ走り、次回は米商プライドで頑張ろうと思います。

快挙！！ 全国ロータリークラブ親睦卓球大会 in 出雲

11/23(土)、24日(日)に新納会員を筆頭に、植田昭会員、足立博俊会員、小田会員、永島正道会員親子、長谷川進会員夫妻にて、出雲まで全国RC卓球大会へ行ってきました。



「団体戦 足立(博)会員、長谷川(進)夫人第3位、植田(昭)会員、大活躍のため一等賞獲得！」



「私の職業②」

山陰労災病院
院長 大野 耕策 会員



私が院長をしている山陰労災病院では「信頼」「優しさ」「効率」という理念があります。特に、石部先生の時から、断らない救急を実施することが使命だと思っております。現在労災病院では、改築工事をしておりまして、平成29年には新棟が出来ます。

私の仕事は小児神経科医ですが、1971年に日本で初めて小児神経科の専門講座ができ、私で3代目になります。日本に小児科医は約1万8千人おり、その中で小児神経科医は3千人です。私は、小児神経学会の理事長をしております。呼吸器をつけた超重症疾患の患者から、正常と病気の区別ができないような発達障害と呼ばれるところまで、非常に幅広い小児の脳機能の障害をみています。病気の子供たちの医療だけでなく、病態の原因の研究と治療法の開発をすることが私たちの使命でありますし、家族の社会的支援をするということも仕事になっております。

現在問題になっておりますのが、重症心身障害児が増えてきているということです。昔は重症心身障害児を受け入れる施設があったのですが、今は無くなって在宅になっています。この現状を何とかしたいと考えております。

もうひとつ問題になっているのは、アスペルガー症候群とか、その他の広範性発達障害、学習障害、注意欠陥多動性障害といった子供たちが、法律が決めた概念で障害だということで、学校の先生から、非常に沢山の紹介を受けることになりました。ですが、この子供たちは昔なら障害ではなかったもので、学校を出たら社会に出られた子供たちです。それが子供の6.5%もいます。この中で、典型的なのがアスペルガー症候群です。特徴は、対人関係に障害があり、「こだわり」がある人です。この子供たちは譲れない「こだわり」の為に、苦勞することがあります。うつ病や不登校になったりします。

私の研究ですが、希少な病気で小児神経遺伝病の結節性硬化症とニーマンピック病C型とゴーシェ病です。結節性硬化症は2010年に薬ができ、厚生労働省に働きかけ、薬が承認されました。ニーマンピック病C型は、日本で診断できるのは鳥取大学だけだったので、患者さんが沢山集まってきました。これも5年前に薬ができ、私が監修しています。ゴーシェ病は治療法が確立されましたが、日本人の場合には合わず、私たちが10年前から新しい治療法を始め、治るようになってきました。またシャペロン病療法の開発のため、私が会長で日本シャペロン研究会というのを作りまして、薬を改良、開発していこうという働きかけをしております。